

「地域経済動向に関するアンケート調査」分析報告書

中小企業診断士 久保田義幸

I 「地域経済動向に関するアンケート調査」の目的について

当調査は、昨年に引き続き当地域内で事業を行う事業者の「景気動向」について調査を行うものである。今年も、4半期ごとの調査を1年にわたって続け、当地域の各業種の業況の変化を追った。当調査は、業種ごとの特徴を把握し、今後の個社支援に活用するとともに、当地域の小規模事業者が、それらの情報を持続的な発展に役立ててもらうことを目的とする。

1 調査時期

平成29年6月～平成30年1月

2 調査対象期間

平成29年1月～12月

3 調査方法

当商工会会員事業者に対して調査票を郵送した。








4 景況調査の分析方法

景況調査はDIを算出して行った。また、各分析値は、桐生信用金庫が実施している「地域産業景気動向調査」と比較し、桐生市全域と当地域の状況との差異について分析を行った。

※ DI…Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス)。企業の業況感や設備、雇用人員の過不足などの各種判断を指数化したもの。当アンケートのDIは下記の計算式にて算出した。

$$DI = \frac{(\text{第1選択肢の回答社数構成百分比} + \text{第2選択肢の回答社数構成百分比})}{(\text{第4選択肢の回答社数構成百分比} + \text{第5選択肢の回答社数構成百分比})}$$

凡例

DI 値	100～35	34～20	19～8	7～▲6	▲7～▲19	▲20～▲34	▲35～▲100
表示							
内容	快晴	晴	薄日	曇	濃い曇	雨	どしゃ降り

























II 経済動向調査分析

1 総評

平成 29 年において、当地域の全業種の DI は桐生市全域と比較し総じて良くない状況であった。特に、小売業・製造業においてその差異が大きく、DI の差異の平均はそれぞれ 22.6・20.7 となり、20 ポイント以上の開きがあった。また、建設業・サービス業においても差異の平均はそれぞれ 18.7・16.7 となっており、厳しい状況が続いている。

		1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
桐生市	全業種	3.2	5.3	4.4	11.9
	製造	2.4	2.4	3.3	14.0
	卸売	▲ 10.0	▲ 6.7	0.0	16.7
	小売	▲ 4.8	2.4	0.0	0.0
	サービス	1.8	11.0	▲ 0.9	4.6
	建設	29.8	17.0	17.0	23.4
	不動産	0.0	12.9	25.8	9.7
当地域	全業種	▲ 2.0	▲ 10.2	▲ 9.3	▲ 3.5
	製造	▲ 7.4	▲ 25.9	▲ 18.2	▲ 9.1
	卸売	▲ 100.0	100.0	100.0	100.0
	小売	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 14.3	▲ 28.6
	サービス	▲ 25.9	3.7	▲ 20.0	▲ 8.0
	建設	33.3	▲ 7.4	▲ 9.1	▲ 4.5
	不動産	100.0	0.0	0.0	0.0

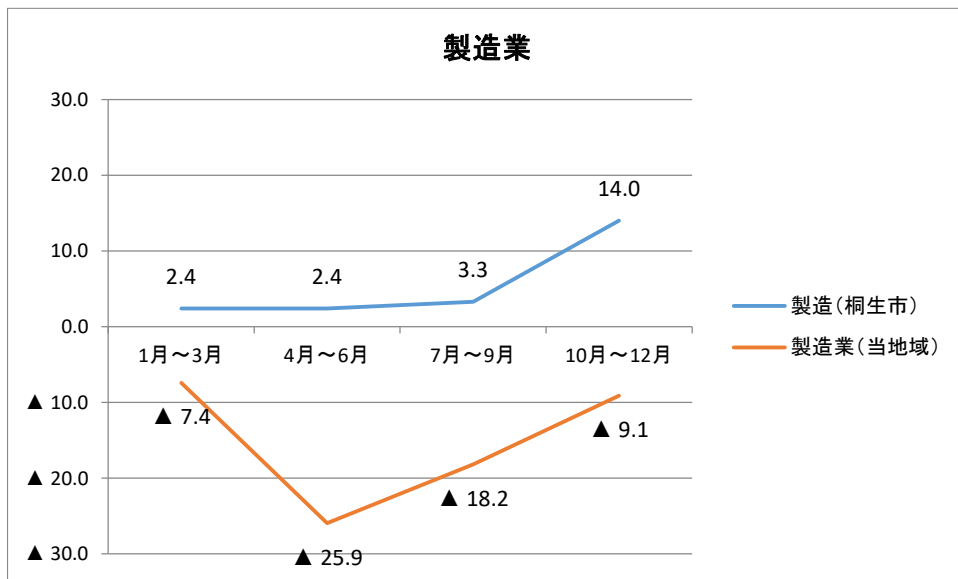
<業種別天気図>

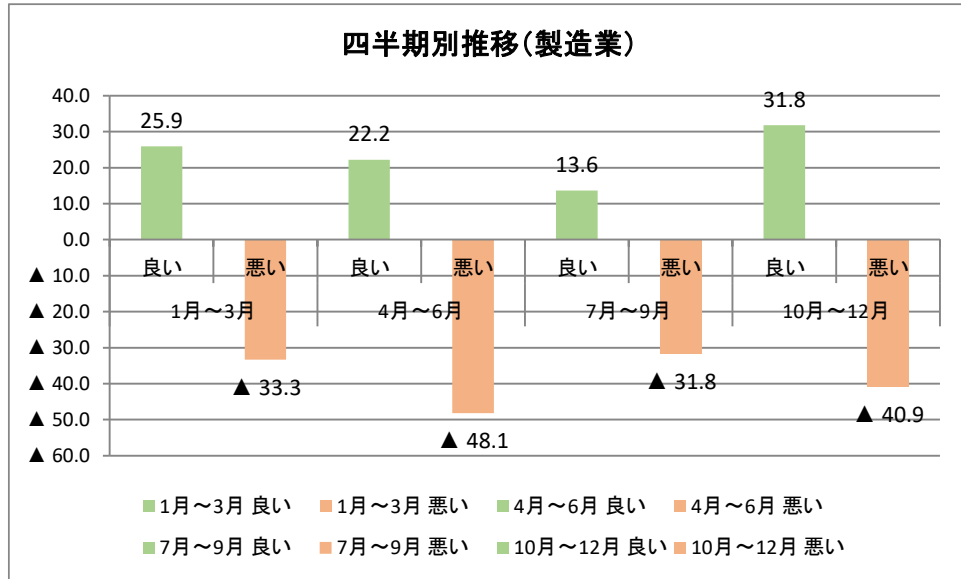
		1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
全業種	桐生市				
	当地域				
製造	桐生市				
	当地域				
卸売	桐生市				
	当地域				

小売	桐生市				
	当地域				
サービス	桐生市				
	当地域				
建設	桐生市				
	当地域				
不動産	桐生市				
	当地域				

2 製造業

- ・ 桐生信用金庫の「地域産業景気動向調査」によると、1月～9月までの業況は2.4～3.3で推移していたが、10月～12月期においては14.0に上昇した。
- ・ 新里商工会の「地域経済動向に関するアンケート調査」においては、全ての期間でマイナス値となっているものの、7月以降上昇傾向が続いており今後の回復が期待できる。



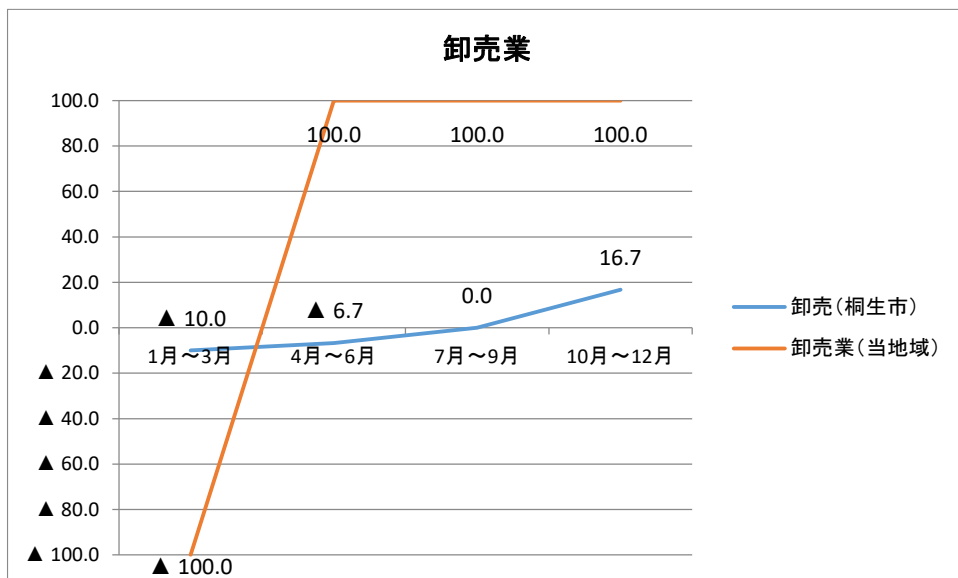


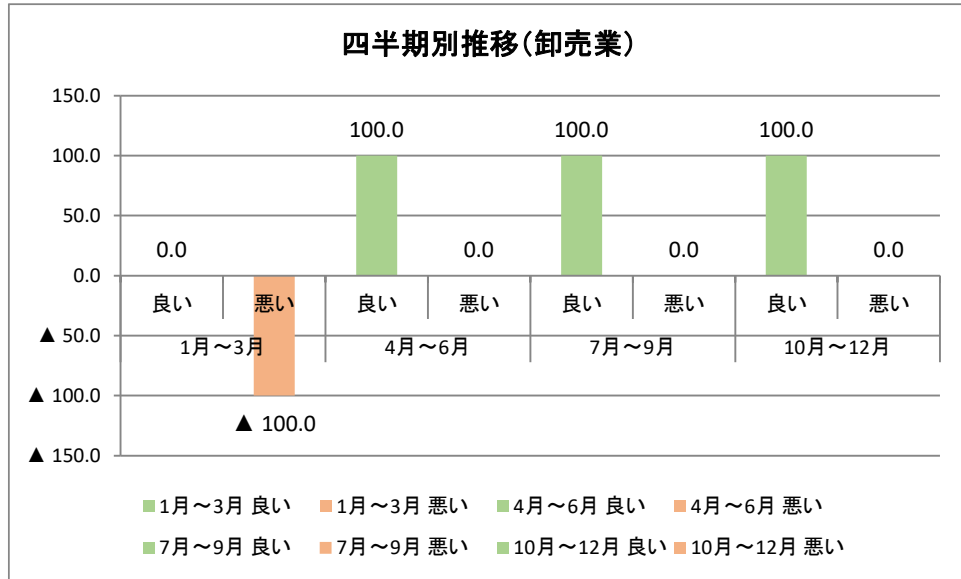
「コメント」

- ・わが社に付いて言えば、季節で経営や業績が変化するので前年に比べてみると少し上向き傾向。ただ人手不足が深刻で業績を圧迫している。
- ・同業者も同様、あまりよくないみたいです。
- ・40年前アメリカ空洞化と言われました。現在は日本が空洞化である。同業者はやめている。明日は我が身である。

3 卸売業

- ・ 桐生信用金庫の「地域産業景気動向調査」によると、卸売業の業況 DI は 1 月～6 月まではマイナス値となっていたものの、その後改善し、10 月～12 月は 16.7 となった。
- ・ 新里商工会の「地域経済動向に関するアンケート調査」においては、卸売業のサンプル数が少なく、参考値となる。



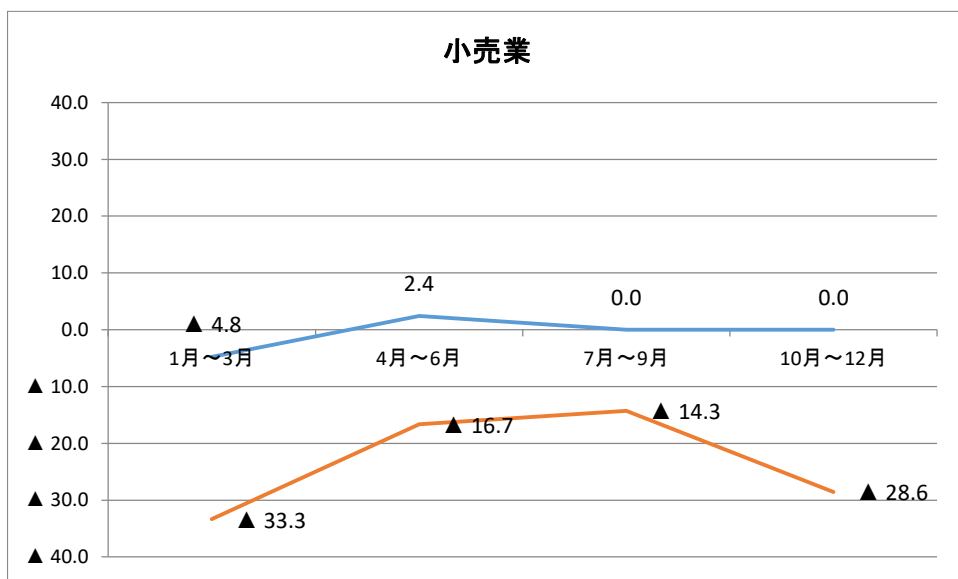


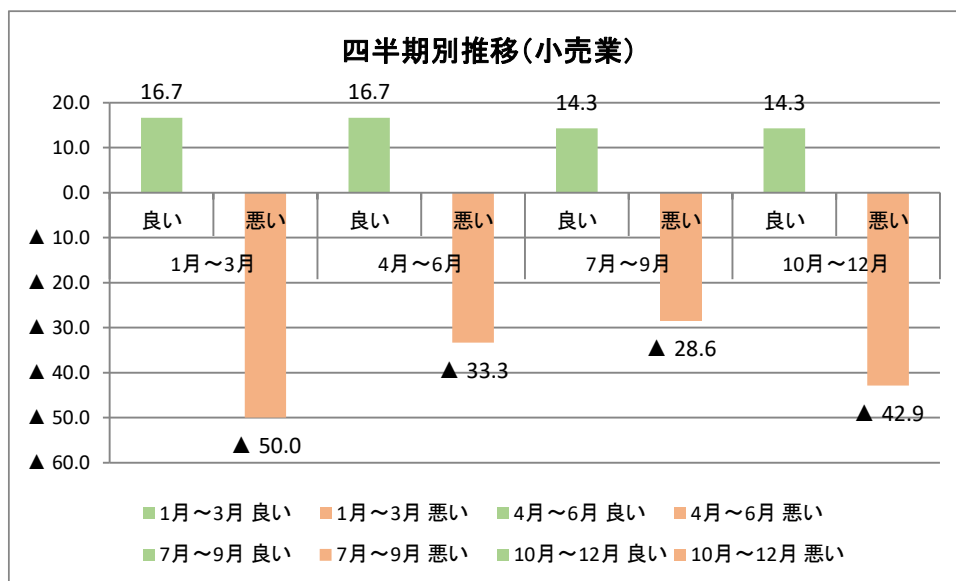
「コメント」

- ・季節によって売り上げが変動する商品を扱っているため、四半期ごとの売上や業績も春（4-5）夏（7-8）冬（11-12）は良くなるが、その他の時期は低くなる周期なので通年で見ることも必要かなと思います。

4 小売業

- ・ 桐生信用金庫の「地域産業景気動向調査」によると、年初の1月~3月の業況はマイナスであった。4月~6月においては2.4と回復したものの、その後年末にかけて0.0の状態が続き業況は横ばい状態となっている。
- ・ 新里商工会の「地域経済動向に関するアンケート調査」においては、年間を通じてDI値がマイナスとなった。直近の10月~12月期においては前期と比較し14.3ポイント減少し厳しい状態が続いている。



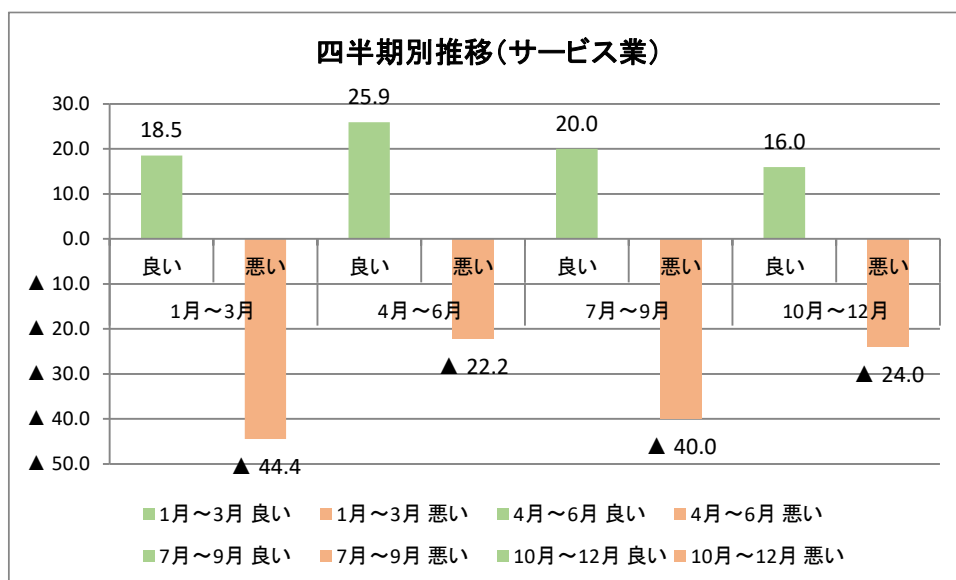
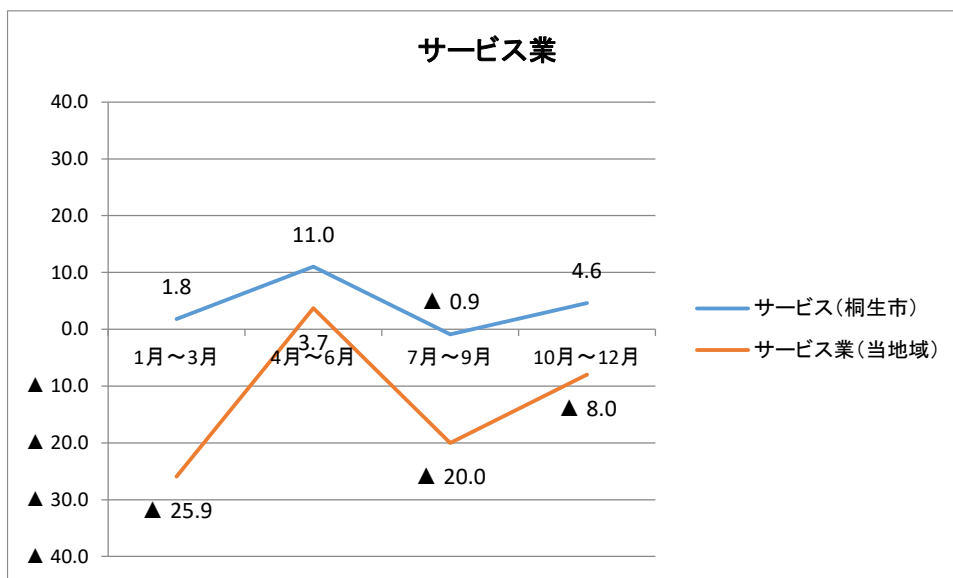


「コメント」

- ・子育て世帯の減少により、売上は年々落ち込んでいます。質の良い商品をお客様に納得していただけて購入していただいています。お客様とのコミュニケーションを大切にしていきたいと思っています。
- ・学校用品の自営業ですので、学校行事の簡素化、子供の人数、不景気で年々売上減少を感じております
- ・人手不足が深刻です。
- ・29年6月、土地を購入し駐車場を増設した結果、売上増につながった。

5 サービス業

- ・ 桐生信用金庫の「地域産業景気動向調査」によると、7月~9月においてDI値が▲0.9とマイナス値となったものの、その他の4半期はプラスで推移している。しかし、多少の波はあるもののこの一年においては横ばい状態となっている。
- ・ 新里商工会の「地域経済動向に関するアンケート調査」においては、4月~6月において3.7とプラスとなったが、その他はマイナスとなっており、桐生市と同様横ばい状態が続いている。



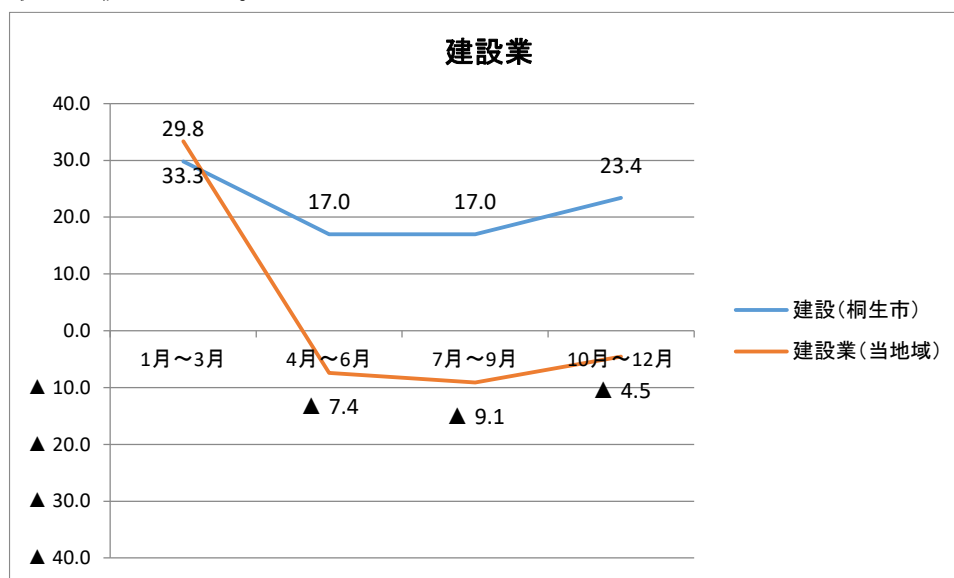
「コメント」

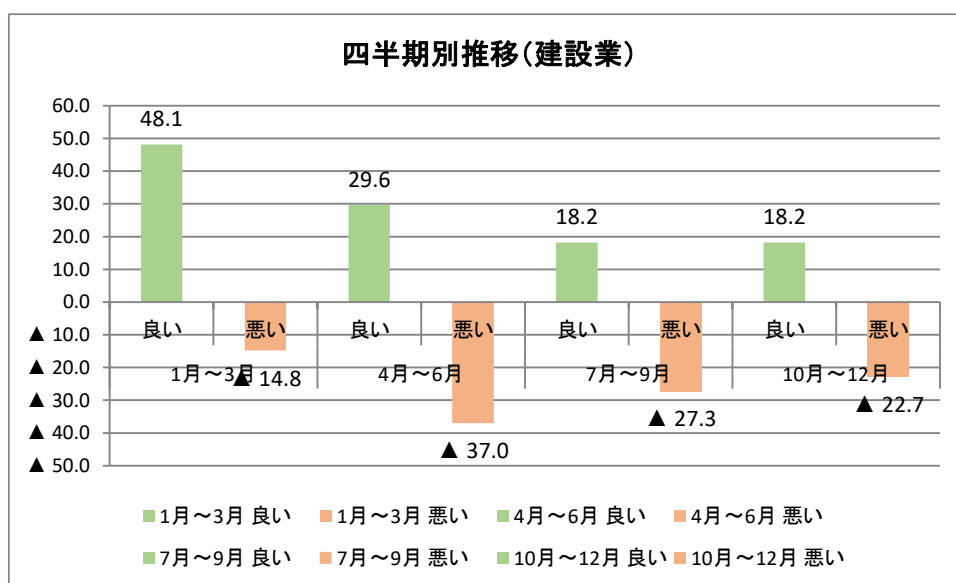
- ・業績のわずかなアップはリニューアルに伴うものであり、地域経済が良くなったからとは断言できない。
- ・リーマン以降、生産設備の価格は低いままで購入費のみが上がっている状況です。つまり設計工数は上がっていない。また納期も短いままです。忙しい毎日ですが思ったより業績があがりません。
- ・桐生新里地区がどんどん錆びれていく気がします。若い人が少なくなったのか、何か活性化できることがあるとよいと思いますが、私の知らない世界ではできているのかもしれませんが、これから夏に向かい少し楽しい事が見つけられると良いのですが。
- ・経営状況は赤字でもなく黒字でもなく普通です。市外受注が多くほぼ固定客なのであまり変動していません。
- ・微増ではあるが、来場者も増え地域の景気が良くなっていることを感じる。

- ・高齢化の影響が大きいです
- ・経営革新計画に沿った事業が伸びた。来年も同様の見通し。ほぼ地域外の事業なので不明。
- ・売上自体は緩やかに上向き、ただその分経費もかかっている所以利益率はあまり変わらない。変動費率を下げることで不要な業務を減らし固定費を見直すことを来期の目標にしたい
- ・年々売り上げが減っていく、先が見えない
- ・夜にも明るさを示しているのはコンビニ位というのは悲しい
- ・将来はどうなるの 不安だね
- ・大手企業もしくはその下の協力会社までは景気改善の効果はでていますが、我々末端の個人業の単価は反映されていないのが現実です。良いときの売上と同等にするには1.5～2倍の仕事をこなさなければなりません。仕事の数も上がっています。
- ・行動・消費する人口は年々減少していることも踏まえ、ネット社会となり身近な地域は勿論、遠方からでも魅力を感じる町、店としていくことが必要。メインの観光やイベントの前後、立ち寄り所の紹介をすることに努め、足を休める所、心躍らす所の案内を増やす。特に昆虫の森・カリビアンビーチは現状のままではもったいないと思う。
- ・いい人が来ない、来てもすぐにやめる、人材確保が難しい。仕事内容でも魅力だと思えない、先が見えない、明るい話題がない、打開策を考えます

6 建設業

- ・ 桐生信用金庫の「地域産業景気動向調査」によると、年間を通して DI 値が 17.0 以上となっており全業種の中で最も良い状態と言える。
- ・ 新里商工会の「地域経済動向に関するアンケート調査」においては、1月～3月においては 33.3 と高い数値を示したがその後マイナスに転じ、年末にかけて横ばい状態が続いている。



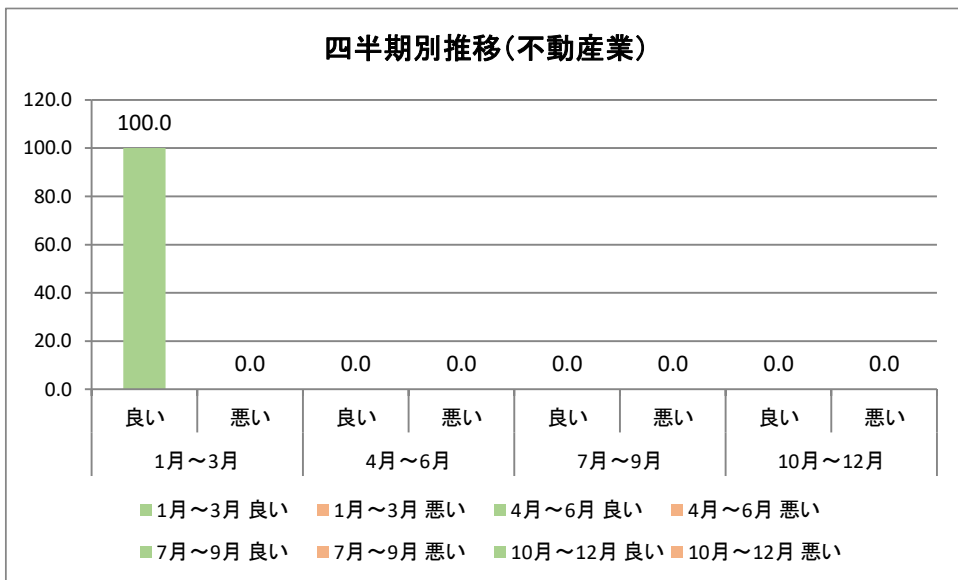
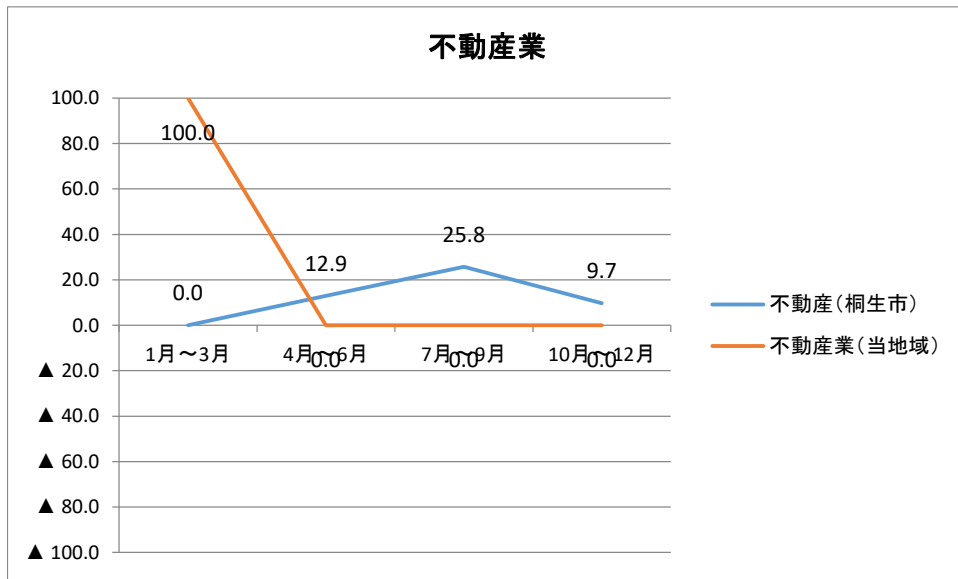


「コメント」

- ・新規に商工会のメンバーになったのを機会に営業など自分を奮い立たせて経営状況アップを目指したいです。
- ・仕事の内容が年々質の低下が目立ち、収入金額は変わらなくとも様々な面で責任が重く、現場が遠くなったりなど少しずつ体力、経済の負担が増えていると感じます
- ・これから工業団地が進み、地域の向上が期待できる

7 不動産業

- ・桐生信用金庫の「地域産業景気動向調査」によると、1月～3月のDI値は0.0であったが、その後改善が進み7月～9月には25.8となった。直近の10月～12月は9.7と悪化したものの依然プラス値を示しており良い状態が続いている。
- ・新里商工会の「地域経済動向に関するアンケート調査」においては、不動産業のサンプル数が少なく、参考値となる。



8 昨年との年間比較

・平成 29 年中の業績を前期と比較しどうであったかを尋ねたところ、小売業が▲28.6 となり業況が良くないことがうかがえる。次いで、製造業▲9.1、建設業▲4.5 となっている。

	昨年との比較
全業種（当地域）	▲ 4.7
製造業（当地域）	▲ 9.1
卸売業（当地域）	100.0
小売業（当地域）	▲ 28.6
サービス業（当地域）	0.0
建設業（当地域）	▲ 4.5
不動産業（当地域）	100.0

